

(3年)

	今年度の課題	改善策	補充・発展指導計画	年度末評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の定着に差がみられる。 ・語彙がまだ少なく、表現力が乏しい。また、作文用紙の使い方が未定着である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を確実に定着させるために、反復練習を計画的に行う。 ・文章を書く習慣を付けさせるため、定期的に作文を書かせる。題材に合わせ、教師が見本文例を示し、綴り方を広げさせる。 ・互いに作文を読み合い、友達の作品の良さに気付いて活用できるようにする。 ・読書活動を充実させ、年間2000ページを達成できるように学年で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の定着ができていない児童は、再テストを数回行う。また、家庭と連携を取り、家庭学習で確認をしてもらう。 ・作文指導では、テーマを決め意図的に様々な言葉を使用させる。よく書けている作文などを定期的に紹介して意欲向上を図る。 ・言葉のまとめりや意味を意識しながら文章を読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントで何回も復習することにより漢字の定着がみられた。 ・作文指導では、書く意欲や書いた甲斐のある気持ちを持たせることができた。 ・語彙力を増やすきっかけを作れた。 ・辞書を活用し、意味調べを行い語彙を増やすことができた。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図やグラフ、参考資料などから、必要な情報を的確に読み取る経験がない。 ・生活経験が乏しく、実物のイメージをもつことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題を設定し、予想を立て資料を見る視点を提示してから、資料活用の時間を取る。 ・社会科見学を活用する。難しい単元では、実物を用いて活動をする。 ・ICT機器だけではなく実際に観察することで、市内の様子や位置関係について捉えやすくできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習に出かけた際に、地域の様子も観察する。 ・東大和音頭などを学習する際、地域の人にゲストティーチャーとして招聘する。 ・総合の時間と関連付けて、児童が課題を立てたことをまとめられるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の本を活用し、昔の郷土について絵年表にまとめた活動を通し、必要な情報を読み取る経験ができた。 ・様々な場所に校外学習に行くことで、体験的な学習を数多く経験することができ、学習内容が深まった。 ・GTに来ていただくと学習内容をより身近に感じられた。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や量の抽象化が苦手である。 ・かけ算九九の習熟の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を教材として用いることでイメージできるようにする。実際に長さや量を図る活動を通し、量感を身に付ける。 ・授業の冒頭5分に計算問題の補充や九九の暗唱などを実施して定着できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルを活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・家庭と連携して、定着度や理解度を把握し、重点化を図る。 ・既習事項を生かした応用問題に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・量の単位や図形が弱く、ベーシックドリルでは、平均正答率が微増し程度だった。苦手な部分を反復で復習する必要がある。 ・計算問題を、授業冒頭に実施したことにより、定着した。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫や植物に触れる機会が少ない児童が多く、基礎知識が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な昆虫と食草について、実際に観察する。 ・マイパソコンを使い、昆虫の育ち方を動画で視聴したり、植物の観察の際はカメラを使ったりして細部まで観察し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味や関心を高める指導の工夫を継続する。また、個人だけでなく、グループ学習を用いてわかりやすく表現する力を積み上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題に対応した予想がたてられるようになり、正しい視点をもって観察や実験ができる児童が増えた。

<p style="text-align: center;">体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どのように体を動かすと、うまく運動できるのかを考えて実践することが苦手である。 • 勝ち負けにこだわってしまい、互いに高め合ったり励まし合ったりする態度の育成が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> • タブレットで児童の動きを録画し、自分の体の使い方や動きを振り返ったり、手本動画を繰り返し視聴したりして、運動のこつを身に付けられるようにする。 • 「次がんばろう」「前と比べて～が良くなったよ」など前向きな言葉掛けができるように、ルールの単純化や易しい場の設定をする。 • 上手な子の動きを見て、どこが良いのかを見付けさせるようにする。 • 各時間のはじめに鬼遊びなど体力を高める運動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> • お互いのよさを振り返りの時間で発表し合い、運動を楽しむ雰囲気を作る。 • 体育での活動を休み時間や放課後の時間につなげ、体力を高める啓発活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の動きを確認したり、友達にアドバイスをもらったりする姿が増えた。 • また、運動の特性に触れたことにより、児童が意欲的に体育の学習に取り組む姿が見られた。 • 縄跳びやボール運動などを休み時間に練習する児童が増えた。
--	---	--	---	--